SKIN EXTERNAL PREPARATION

Publication number: JP8012565
Publication date: 1996-01-16

Inventor:

KOMAZAKI HISAYUKI: SHIBATA YUKI: YAGI

EIICHIRO; NAGANUMA MASAKO; FUKUDA MINORU

Applicant:

SHISEIDO CO LTD

Classification:

- international: A61K8/96; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/26; A61K8/97;

A61K36/00; A61K36/18; A61K36/28; A61K36/81; A61K36/899; A61P17/00; A61P43/00; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/12; A61Q19/00; A61Q19/02; A61K8/96; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/19; A61K36/00; A61K36/18; A61K36/185; A61K36/88; A61P17/00; A61P43/00; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/12; A61Q19/00; A61Q19/02; (IPC1-7): A61K7/48; A61K7/00; A61K7/02; A61K35/78

- European:

Application number: JP19940168692 19940629 Priority number(s): JP19940168692 19940629

Report a data error here

Abstract of **JP8012565**

PURPOSE:To obtain a skin external preparation having excellent effects on lightening of the color and beautifying and whitening of pigmentation, dermal stains, ephelides, chloasmata, etc., after sunburn and excellent in safety. CONSTITUTION:This skin external preparation is obtained by blending extracts of Aliso (Alnus jorulensis H.B.K.), Allco Quisca (Xanthium Spinosum), Capirona (Capirona decorticans Spruce), Cocona (Solanum quitoense Lam.), Cuti-cuti [Notholuaena nivea (Pair) Desv.], Chinchilcuma (Mutisia acuminata R. & P.), Chilca (Baccharis polyantha), Grama dulce [Cynodon dactulon (L.) Pevs.], Manayupa (Desmodium molliculum or Desmodium limense Hook.), Hierba santa (Cestrum L.), Hinojo (Eremocharis Phil), Toronjil (Melissa officinalis L.), Quinua (Cheno podium quinua willdenow), Maca (Lepidium meyenii Walp), Alacran (Heliotropium sp.), Chupa Sangre (Oenothera rosea), Vira-Vira (Culcitium canscens H.B.K.), Molle (Schinus moiled, Guarango (Prosopis padlida H.B.K.), Que shuar (Buddleja L.), Pasuchaca (Geranium stratorn), Chuchuhuasi (Maythenus krukovii), Ratana (Krameria trianda) or Tumbo therein.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-12565

(43)公開日 平成8年(1996)1月16日

(51) Int.Cl. ⁶		識別記号	庁内整理番号	FΙ	技術表示箇所
A61K	7/48		•		
	7/00	K			
		x			
		U			
	7/02	Z			
			審査請求	未請求 請求	項の数2 FD (全23頁) 最終頁に続く
(21)出願番号		特願平6-168692		(71)出願ノ	\ 000001959
					株式会社資生堂
(22)出顧日		平成6年(1994)6月29日			東京都中央区銀座7丁目5番5号
				(72)発明和	皆 胸崎 久幸
		•			神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
					式会社資生堂第一リサーチセンター内
				(72)発明報	当一艺田由記
					神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
					式会社資生堂第一リサーチセンター内
				(72)発明者	者 八木 栄一郎
					神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
•					式会社資生堂第一リサーチセンター内
				(74)代理/	
					最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57) 【要約】

【目的】 日焼け後の色素沈着・しみ・そばかす・肝斑 等の淡色化、美白に優れた効果を有すると共に、安全性 にも優れた皮膚外用剤を提供する。

【構成】 アリソ (Aliso)、アルコ・キイスカ (Allco Quisca)、キャピロナ (Capirona)、ココナ (Cocon a)、キュティーキュティ (Cuti-cuti)、チンチルキュマ (Chinchilcuma)、チルカ (Chilca)、グラマ・ダルス (Grama dulce)、マナユパ (Manayupa)、ヒエルバ・サンタ (Hierba santa)、ヒノジョ (Hinojo)、トロンジル (Toronjil)、キイヌア (Quinua)、マカ (Mac a)、アラクラン (Alacran)、チュパ・サングレ (Chup a Sangre)、ビラービラ (Vira-Vira)、モレ (Moll e)、グアランゴ (Guarango)、クエ・シャー (Que shu ar)、パスチャカ (Pasuchaca)、チュチュフアシ (Chu chuhuasi)、ラタナ (Ratana) またはタンボ (Tumbo)の抽出物を配合する皮膚外用剤。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記植物の抽出物から選ばれた一種または二種以上を配合することを特徴とする皮膚外用剤。

- (1) アリソ(Aliso、学名:Alnus jorulensis HB K)
- (2) アルコ・キイスカ(Allco Quisca、学名: Xanthium Spinosum)
- (3) キャピロナ (Capirona、学名: Capirona decorticans Spruce)
- (4) ココナ (Cocona、学名: Solanum quitoense Lam.)
- (5) キュティーキュティ(Cuti-cuti、学名: Notholuaena nivea(Poir)Desv. (シダ植物))
- (6) チンチルキュマ (Chinchilcuma、学名: Mutisia acuminata R. &P.)
- (7) チルカ (Chilca、学名: Baccharis polyantha)
- (8) グラマ・ダルス (Grama dulce、学名: Cynodon dactulon(L.) Pevs. (イネ科))
- (9) マナユパ (Manayupa、学名: Desmodium mo lliculum(または、D. limense Hook.)
- (10) ヒエルバ・サンタ(Hierba santa、 学名: Cestrum L. (ナス科))
- (11) ヒノジョ(Hinojo、学名: Eremocharis Phil)
- (12) トロンジル (Toronjil、学名: Melissa o fficinalis L.)
- (13) キイヌア (Quinua、学名: Cheno podium quinua willdenow)
- (14) マカ(Maca、学名:Lepidium meyenii Walp)
- (15) アラクラン(Alacran、学名: Heliotropium sp.)
- (16) チュパ・サングレ (Chupa Sangre、 学名: Oenothera rosea)
- (17) ビラービラ (Vira Vira、学名: Culciti um canscens H.B.K.)
- (18) モレ (Molle、学名: Schinus molle)
- (19) グアランゴ(Guarango、学名: Prosopis padlida H. B. K.)
- (20) クエ・シャー(Que shuar、学名:Buddleja L.)
- (21) パスチャカ (Pasuchaca、学名: Geraniu m stratorn)
- (22) チュチュフアシ(Chuchuhuasi、学名: Maythenus Krukovii)
- (23) ラタナ (Ratana、学名: Krameria trianda)
- (24) タンボ (Tumbo)

【請求項2】 植物の抽出物の配合量が0.005~2 0.0重量%である請求項1記載の皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は特定の植物の抽出物を配合する事により、日焼け後の色素沈着・しみ・そばかす・肝斑等の予防および改善に有効なチロシナーゼ阻害活性を有する皮膚外用剤に関する。

[0002]

【従来の技術】皮膚のしみなどの発生機序については一部不明な点もあるが、一般には、ホルモンの異常や日光からの紫外線の刺激が原因となってメラニン色素が形成され、これが皮膚内に異常沈着するものと考えられている。皮膚の着色の原因となるこのメラニン色素は、表皮と真皮との間にあるメラニン細胞(メラノサイト)内のメラニン生成顆粒(メラノソーム)において生産され、生成したメラニンは、浸透作用により隣接細胞へ拡散する。このメラノサイト内における生化学反応は、次のようなものと推定されている。

【0003】すなわち、必須アミノ酸であるチロシンが 酵素チロシナーゼの作用によりドーパキノンとなり、これが酵素的または非酵素的酸化作用により赤色色素および無色色素を経て黒色のメラニンへ変化する過程がメラニン色素の生成過程である。従って、反応の第1段階であるチロシナーゼの作用を抑制することがメラニン生成の抑制に重要である。

[0004]

【発明が解決しようとする課題】しかしチロシナーゼ作用を抑制する化合物はハイドロキノンを除いてはその効果の発現がきわめて緩慢であるため、皮膚色素沈諳の改善効果が十分でない。一方、ハイドロキノンは効果は一応認められているが、感作性があるため、一般には使用が制限されている。そこでその安全性を向上させるため、高級脂肪酸のモノエステルやアルキルモノエーテルなどにする試み(特開昭58-154507号公報)がなされているが、エステル類は体内の加水分解酵素によって分解されるため必ずしも安全とはいいがたく、またエーテル類も安全性の面で充分に満足するものが得られていない。

[0005]

【課題を解決するための手段】そこで本発明者らはこれらの問題を解決するものとして広く種々の物質についてチロシナーゼ活性阻害効果を調べた結果、特定の植物の抽出物がチロシナーゼ活性阻害作用を有していることを見い出し、本発明を完成するに至った。後記するこれらの植物の抽出物のチロシナーゼ活性阻害作用に関する報告はこれまでになく、美白剤への応用も全く知られていない。本発明者らは上記知見に基づいて本発明を完成するに至った。

【 O O O 6 】 すなわち本発明は、下記植物の抽出物から 選ばれた一種または二種以上を配合することを特徴とす る皮膚外用剤である。 【0007】(1) アリソ(Aliso、学名:Alnus jo rulensis HBK)

- (2) アルコ・キイスカ(AIIco Quisca、学名: Xanthium Spinosum)
- (3) キャピロナ (Capirona、学名: Capirona decorticans Spruce)
- (4) ココナ (Cocona、学名: Solanum quitoense Lam.)
- (5) キュティーキュティ(Cuti-cuti、学名: Notholuaena nivea(Poir)Desv.(シダ植物))
- (6) チンチルキュマ (Chinchilcuma、学名: Mutisia acuminata R.&P.)
- (7) チルカ (Chilca、学名: Baccharis polyantha)
- (8) グラマ・ダルス (Grama dulce、学名: Cynodon dactulon(L.)Pevs. (イネ科))
- (9) マナユパ (Manayupa、学名: Desmodium mo lliculum(または、D. limense Hook.)
- (10) ヒエルバ・サンタ(Hierba santa、 学名: Cestrum L. (ナス科))
- (11) ヒノジョ(Hinojo、学名: Eremocharis Phil)
- (12) トロンジル(Toronjil、学名:Melissa o fficinalis L.)
- (13) キイヌア (Quinua、学名: Cheno podium quinua willdenow)
- (14) マカ (Maca、学名:Lepidium meyenii Walp)
- (15) アラクラン(Alacran、学名: Heliotropium sp.)
- (16) チュパ・サングレ (Chupa Sangre、 学名: Oenothera rosea)
- (17) ビラービラ(Vira-Vira、学名: Culciti um canscens H.B.K.)
- (18) モレ(Molle、学名: Schinus molle)
- (19) グアランゴ (Guarango、学名: Prosopis padlida H.B.K.)
- (20) クエ・シャー(Que shuar、学名: Buddleia L.)
- (21) パスチャカ (Pasuchaca、学名: Geranium stratorn)
- (22) チュチュフアシ(Chuchuhuasi、学名: Maythenus Krukovii)
- (23) ラタナ (Ratana、学名: Krameria trianda)
- (24) タンボ (Tumbo)

【 O O O 8 】以下、本発明の構成について詳述する。本 発明に用いられる植物類は、南アメリカ、特にアンデス などの乾性草原、牧草などに生える植物類である。本発 明に用いられる抽出物は上記植物の葉と茎または果実 等、全草を抽出溶媒と共に浸漬または加熱還流した後、 濾過し、濃縮して得られる。本発明に用いられる抽出溶 媒は、通常抽出に用いられる溶媒であれば何でもよく、 特にメタノール、エタノール等のアルコール類、含水ア ルコール類、アセトン、酢酸エチルエステル等の有機溶 媒を単独あるいは組み合わせて用いることができる。

【0009】本発明における植物抽出物の配合量は、外用剤全量中、乾燥物として0.005~20.0重量%、好ましくは0.01~10.0重量%である。0.005重量%未満であると、本発明でいう効果が十分に発揮されず、20.0重量%を超えると製剤化が難しいので好ましくない。また、10.0重量%以上配合してもさほど大きな効果の向上はみられない。

【〇〇10】また、本発明の皮膚外用剤には、上記必須 成分以外に、通常化粧品や医薬品等の皮膚外用剤に用い られる成分、例えば、その他の美白剤、保湿剤、酸化防 止剤、油性成分、紫外線吸収剤、界面活性剤、増粘剤、 アルコール類、粉末成分、色剤、水性成分、水、各種皮 **膚栄養剤等を必要に応じて適宜配合することができる。** 【〇〇11】その他、エデト酸ニナトリウム、エデト酸 三ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリ ウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸等の金属封鎖 剤、カフェイン、タンニン、ベラパミル、トラネキサム 酸およびその誘導体、甘草抽出物、グラブリジン、火棘 の果実の熱水抽出物、各種生薬、酢酸トコフェロール、 グリチルリチン酸およびその誘導体またはその塩等の薬 剤、ビタミンC、アスコルビン酸リン酸マグネシウム、 アスコルビン酸グルコシド、アルブチン、コウジ酸等の 他の美白剤、グルコース、フルクトース、マンノース、 ショ糖、トレハロース等の糖類なども適宜配合すること ができる。

【0012】本発明の皮膚外用剤とは、例えば軟膏、クリーム、乳液、ローション、パック、浴用剤等、従来皮膚外用剤に用いるものであればいずれでもよく、剤型は特に問わない。

[0013]

【実施例】次に実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。尚、本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。実施例に先立ち、本発明の植物抽出物のチロシナーゼ活性阻害効果に関する試験方法とその結果について説明する。

【0014】試験方法およびその結果

- 1. 試料の調製
- (1) アリソ (Aliso) 抽出液

アリソ(Aliso)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物13.1gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【OO15】(2) アルコ・キイスカ(Allco Quisca) 抽出液

アルコ・キイスカ(Allco Quisca)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物3.4gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0016】(3) キャピロナ (Capirona) 抽出液

キャピロナ(Capirona)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物12.7gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0017】(4) ココナ(Cocona)抽出液ココナ(Cocona)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物7.2gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0018】(5) キュティーキュティ(Cutiーcu + i)抽出液

キュティーキュティ(Cutiーcuti)の茎および 枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽 出液を濃縮し、エタノール抽出物3.0gを得た。この 抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃 度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0019】(6) チンチルキュマ(Chinchilc uma)抽出液

チンチルキュマ(Chinchilcuma)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物10.3gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0020】(7) チルカ(Chilca)抽出液チルカ(Chilca)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物7.0gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0021】(8) グラマ・ダルス(Grama dul ce)抽出液

グラマ・ダルス(Grama dulce)の茎および 枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽 出液を濃縮し、エタノール抽出物1.0gを得た。この 抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃 度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0022】(9) マナユパ (Manayupa) 抽出液マナユパ (Manayupa) の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物3.3gを得た。この抽出物をD

MSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整 し、これを用いて以下の実験を行った。

【0023】(10) ヒエルバ・サンタ(Hierba santa) 抽出液

ヒエルバ・サンタ(Hierba santa)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物5.0gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0024】(11) ヒノジョ(Hinojo)抽出液 ヒノジョ(Hinojo)の茎および枝部分50gを、 室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エ タノール抽出物6.3gを得た。この抽出物をDMSO に1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これ を用いて以下の実験を行った。

【0025】(12) トロンジル(Toronjil)抽 出液

トロンジル(Toronjil)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物4. 9gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0026】(13) キイヌア(Quinua) 抽出液キイヌア(Quinua) の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物1. 0gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0027】(14) マカ(Maca)抽出液マカ(Maca)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物14.1gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0028】(15) アラクラン(Alacran) 抽出 液

アラクラン(Alacran)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物2.0gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0029】(16) チュパ・サングレ(Chupa Sangre)抽出液

チュパ・サングレ(Chupa Sangre)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物2.5gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0030】(17) ビラービラ(Vira-Vira) 抽出液

ビラービラ(ViraーVira)の茎および枝部分5 Ogを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物6.4gを得た。この抽出物を DMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整 し、これを用いて以下の実験を行った。

【0031】(18) モレ(Molle)抽出液 モレ(Molle)の茎および枝部分50gを、室温で 1週間エタノールに浸潰し、抽出液を濃縮し、エタノー ル抽出物7.9gを得た。この抽出物をDMSOに1% 溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用い て以下の実験を行った。

【0032】(19) グアランゴ(Guarango)抽 出液

グアランゴ(Guarango)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物3.1gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0033】(20) クエ・シャー(Que shuar)抽出液

クエ・シャー(Que shuar)の茎および枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸潰し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物4.0gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0034】(21) パスチャカ(Pasuchaca) 抽出液

パスチャカ(Pasuchaca)の茎および枝部分5 Ogを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物7.1gを得た。この抽出物を DMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整 し、これを用いて以下の実験を行った。

【0035】(22) チュチュフアシ(Chuchuhu asi)抽出液

チュチュフアシ(Chuchuhuasi)の茎および 枝部分50gを、室温で1週間エタノールに浸漬し、抽 出液を濃縮し、エタノール抽出物1.1gを得た。この 抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃 度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0036】(23) ラタナ (Ratana) 抽出液 ラタナ (Ratana) の茎および枝部分50gを、室 温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物3.1gを得た。この抽出物をDMSOに1%溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用いて以下の実験を行った。

【0037】(24) タンボ(Tumbo)抽出液 タンボ(Tumbo)の茎および枝部分50gを、室温 で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノ ール抽出物8.3gを得た。この抽出物をDMSOに1 %溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これを用 いて以下の実験を行った。

【0038】2. 細胞培養法

マウス由来のB16メラノーマ培養細胞を使用した。10%FBSおよびテオフィリン(0.09mg/ml)を含むイーグルMEM培地中でCO2インキュベーター(95%空気、5%二酸化炭素)内、37 $^{\circ}$ Cの条件下で培養した。培養24時間後に試料溶液を終濃度(抽出乾燥物換算濃度)で10 $^{-2}$ ~10 $^{-5}$ 重量%になるように添加し、さらに3日間培養を続け、以下の方法でチロシナーゼ活性阻害効果を測定した。

【0039】3. チロシナーゼ活性の測定

測定前にウエル中の培地は除去し、PBS100μ l で 2回洗う。各ウエルに45μ1の1%トライトンーX (ローム・アンド・ハース社製商品名、界面活性剤) を 含むPBSを加える。1分間プレートを振動させ、よく 細胞膜を破壊し、マイクロプレートリーダーで475n mの吸光度を測定してこれをO分時の吸光度とした。そ の後、すばやく5μlの10mMのL-DOPA溶液を 加えて、37℃のインキュベーターに移し、60分間反 応させた。1分間プレートを振動させ、60分時の吸光 度(475mm)を測定した。植物抽出物を添加してい ない試料(コントロール)の場合の0分時と60分時の 吸光度差に対する植物抽出物添加試料の前記吸光度差の 減少分をチロシナーゼ活性阻害率(%)とした。その結 果を表1および表2に示す。また、参考例として、すで にチロシナーゼ活性阻害作用のあることが知られている ケイガイ(シソ科オドリコソウ亜科)のエタノール抽出 物についても上記と同様の試験を行った。その結果を併 せて表2に示す。なお、表中、毒性とあるのは、細胞毒 性が認められたことを示し、一は、コントロールに比べ て、危険率5%以内で有意な差が認められなかったこと を意味する。

【0040】 【表1】

試 験

チロシナーゼ活性阻害率(%)

濃度(重量%)

10-5 10-4 10-3 10-2

アリソ抽出物 アルコ・キイスカ抽出物 - 30 58 毒性 毒性

一 19 54 毒性

キャピロナ抽出物	17	23	25 毒性
ココナ抽出物	24	29	43 毒性
キュティーキュティ抽出物	17	14	33 毒性
チンチルキュマ抽出物	19	17	26 毒性
チルカ抽出物	41	_	毒性 毒性
グラマ・ダルス抽出物	_	_	17 毒性
マナユパ抽出物	39	30	39 55
ヒエルバ・サンタ抽出物	_	_	36 毒性
ヒノジョ抽出物	_	_	21 33
トロンジル抽出物	_	_	29 毒性
キイヌア抽出物	15	_	– 33

[0041]

【表2】

チロシナーゼ活性阻害率(%)			
10-5	10-4	10-3	10-2
_	13	11	17
23	14	-	46
_	_	_	74
	_	19	毒性
23	_	38	毒性
_	19	_	毒性
_	_	31	毒性
_	· -	_	27
_	25	32	毒性
27	_	46	毒性
	_	_	46
	_	_	55
		10 ⁻⁵ 10 ⁻⁴ - 13 23 14 23 19 25	- 13 11 23 14 - 19 23 - 38 - 19 - 31 25 32

【0042】実施例1 クリーム	.	香料	適量
(処方)		イオン交換水	残余
ステアリン酸	5.0 重量%	(製法)イオン交換水にプロヒ	ピレングリコールとアリソ
ステアリルアルコール	4. 0	メタノール抽出物と苛性カリを	と加え溶解し、加熱して7
イソプロピルミリステート	18.0	O℃に保つ(水相)。他の成分	分を混合し加熱融解して7
グリセリンモノステアリン酸エス	ペテル 3.0	0℃に保つ(油相)。水相に沤	由相を徐々に加え、全部加
プロピレングリコール	10.0	え終わってからしばらくその温	温度に保ち反応を起こさせ
アリソメタノール抽出物	0.01	る。その後、ホモミキサーでは	匀一に乳化し、よくかきま
苛性カリ	0. 2	ぜながら30℃まで冷却する。	
亜硫酸水素ナトリウム	0. 01	[0043]	
防腐剤	適量		
実施例 2	クリーム		
(処方)	•		
ステアリ	ン酸	2.0 重量%	
ステアリ	ルアルコール	7. 0	

2. 0

5. 0

6. 0

水添ラノリン

2-オクチルドデシルアルコール

スクワラン

```
ポリオキシエチレン(25モル)セチルアルコールエーテル 3.0
           グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0
           プロピレングリコール
                                5.0
                                0.05
           アリソエタノール抽出物
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.03
                                0.3
           エチルパラベン
                                適量
           香料
                                 残余
           イオン交換水
                               乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくか
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱
                               きまぜながら30℃まで冷却する。
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を加え予備
                                [0044]
          実施例3 クリーム
            (処方)
                                5.0 重量%
           固形パラフィン
                               10.0
           ミツロウ
                               15.0
           ワセリン
           流動パラフィン
                               41.0
           グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0
           ポリオキシエチレン(20モル)ソルビタンモノラウリン酸エステル 2.0
                                0. 1
           石けん粉末
                                0. 2
           硼砂
                                0.05
           アルコ・キイスカアセトン抽出物
                                0.05
           アルコ・キイスカエタノール抽出物
                                0.03
           亜硫酸水素ナトリウム
           エチルパラベン
                                0.3
           香料
                                 適量
                                 残余
           イオン交換水
                                一で均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃ま
(製法) イオン交換水に石けん粉末と硼砂を加え、加熱
                                で冷却する。
溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱
                                [0045]
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜ
ながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサ
          実施例4 乳液
            (処方)
                                2.5 重量%
            ステアリン酸
                                1. 5
            セチルアルコール
                                5. 0
            ワセリン
                               10.0
            流動パラフィン
            ポリオキシエチレン(10モル)モノオレイン酸エステル 2.0
           ポリエチレングリコール 1 5 0 0
                                3. 0
            トリエタノールアミン
                                1. 0
                                0.05
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール941, B.F. Goodrich Chemical company)
            アルコ・キイスカ酢酸エチルエステル抽出液 0.01
            亜硫酸水素ナトリウム
                                0.01
                                0.3
            エチルパラベン
            香料
                                 滴量
                                 残余
            イオン交換水
                                え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混
(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマ
                                合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を
ーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチ
```

レングリコール1500とトリエタノールアミンを加

加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一乳

```
化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
                                [0046]
          実施例5 乳液
            (処方)
                                1.0 重量%
           マイクロクリスタリンワックス
                                2. 0
                               20.0
           ラノリン
                               10.0
           流動パラフィン
           スクワラン
                                5. 0
           ソルビタンセスキオレイン酸エステル 4.0
           ポリオキシエチレン(20モル)ソルビタンモノオレイン酸エステル 1.0
                                7. 0
           プロピレングリコール
           キャピロナアセトン抽出物
                               10.0
                                0.01
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.3
           エチルパラベン
                                 適量
           香料
                                 残余
           イオン交換水
                                らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
                               する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
                                [0047]
熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが
          実施例6 ゼリー
            (処方)
           95%エチルアルコール
                               10.0 重量%
                               15.0
            ジプロピレングリコール
           ポリオキシエチレン (50モル) オレイルアルコールエーテル 2.0
            カルボキシビニルポリマー
                                1. 0
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
            苛性ソーダ
                                0.15
                                0. 1
            L-アルギニン
            キャピロナ50%エタノール水溶液抽出物 7.0
            2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム 0.05
            エチレンジアミンテトラアセテート・3ナトリウム・2水 0.05
                                0. 2
            メチルパラベン
                                 適量
            香料
                                 残余
            イオン交換水
 (製法) イオン交換水にカーボポール940を均一に溶
                                る。次いで、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、L
                                -アルギニンで中和させ増粘する。
解し、一方、95%エタノールにキャピロナ50%エタ
                                [0048]
ノール水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)
オレイルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加す
           実施例7 美容液
            (処方)
            (A相)
            エチルアルコール (95%)
                               10.0 重量%
            ポリオキシエチレン(20モル)オクチルドデカノール 1.0
            パントテニールエチルエーテル
                                0.1
            ココナメタノール抽出物
                                1. 5
            メチルパラベン
                                0.15
            (B相)
                                0.1
            水酸化カリウム
            (C相)
```

5. 0

グリセリン

ジプロピレングリコール 10.0 0.03 亜硫酸水素ナトリウム カルボキシビニルポリマー 0. 2 (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company) 精製水 残余 【0050】実施例9 固形ファンデーション (製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA 相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を (処方) 43.1 重量% タルク 行う。 カオリン 15.0 【0049】実施例8 パック セリサイト 10.0 (処方) 7. 0 亜鉛華 (A相) ジプロピレングリコール 二酸化チタン 3.8 5.0 2.9 ポリオキシエチレン (60モル) 硬化ヒマシ油 5.0 黄色酸化鉄 0. 2 黒色酸化鉄 (B相) スクワラン 8. 0 ココナメタノール抽出物 0.01 イソステアリン酸 4. 0 オリーブ油 5. 0 モノオレイン酸POEソルビタン 3. 0 酢酸トコフェロール 0. 2 オクタン酸イソセチル 2. 0 0. 2 エチルパラベン キュティーキュティエタノール抽出物 香料 0. 2 適量 防腐剤 (C相) 適量 香料 0.03 亜硫酸水素ナトリウム (製法)タルク〜黒色酸化鉄の粉末成分をブレンダーで ポリビニルアルコール 13.0 十分混合し、これにスクワラン~オクタン酸イソセチル (ケン化度90、重合度2,000) の油性成分、キュティーキュティエタノール抽出物、防 7. 0 エタノール 腐剤、香料を加え良く混練した後、容器に充填、成型す 残余 精製水 (製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A [0051] 相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え たのち充填を行う。 実施例10 乳化型ファンデーション(クリームタイプ) (処方) (粉体部) 10.3 重量% 二酸化チタン 5. 4 セリサイト 3. 0 カオリン 0.8 黄色酸化鉄 ベンガラ 0.3 黒色酸化鉄 0.2 (油相) デカメチルシクロペンタシロキサン 11.5 4. 5 流動パラフィン ポリオキシエチレン変性ジメチルポリシロキサン 4.0 (水相) 50.0 精製水 1, 3-ブチレングルコール キュティーキュティエタノール抽出物 1. 5 ソルビタンセスキオレイン酸エステル 3. 0

適量

適量

(製法) 水相を加熱攪拌後、十分に混合粉砕した粉体部 を添加してホモミキサー処理する。更に加熱混合した油

防腐剤

香料

相を加えてホモミキサー処理した後、攪拌しながら香料 を添加して室温まで冷却する。

【0052】実施例11 クリーム	香料	適量
(処方)	イオン交換水	残余
ステアリン酸 5.	O 重量% (製法)イオン交換水	にプロピレングリコールとチンチ
ステアリルアルコール 4.	O ルキュマメタノ―ル抽	出物と苛性カリを加え溶解し、加
イソプロピルミリステート 18.	0 熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融
グリセリンモノステアリン酸エステル 3.	O 解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を徐々に加
プロピレングリコール 10.	O え、全部加え終わって	からしばらくその温度に保ち反応
チンチルキュマメタノール抽出物 O.	O 1 を起こさせる。その後	、ホモミキサーで均一に乳化し、
苛性カリ O.	2 よくかきまぜながら3	0℃まで冷却する。
亜硫酸水素ナトリウム O.	01 [0053]	
防腐剤 適		
実施例12 クリーム		
(処方)		
ステアリン酸	2.0 重量%	
ステアリルアルコール	7. 0	
水添ラノリン	2. 0	
スクワラン	5. 0	
2 ーオクチルドデシル	アルコール 6.0	
ポリオキシエチレン・	(25モル) セチルアルコールエーテル	3. 0
グリセリンモノステア	'リン酸エステル 2. O	
プロピレングリコール	5. 0	
チンチルキュマエタノ	一ル抽出物 0.05	
亜硫酸水素ナトリウム	0.03	
エチルパラベン	0. 3	
香料	適量	
イオン交換水	残余	
(製法)イオン交換水にプロピレングリコー	ルを加え、 乳化を行い、ホモミキ	サーで均一に乳化した後、よくか
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を	混合し加熱 きまぜながら30℃ま	で冷却する。
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相	を加え予備 【0054】	
実施例13 クリーム		
(処方)		
固形パラフィン	5.0 重量%	
ミツロウ	10.0	
ワセリン	15.0	
流動パラフィン	41.0	•
• • - •	?リン酸エステル 2. O	
ポリオキシエチレン	(20モル)ソルビタンモノラウリン酸コ	にステル 2.0
石けん粉末	0. 1	
硼砂	0. 2	
チルカアセトン抽出物		
チルカエタノール抽出	- 112	
亜硫酸水素ナトリウム		
エチルパラベン	0. 3	
香料	適量	
イオン交換水	残余	
(製法) イオン交換水に石けん粉末と硼砂を		l化後よくかきまぜながら30℃ま
溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を	混合し加熱 で冷却する。	

融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜ 【0055】

ながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサ 実施例14 乳液 (処方)

メチルパラベン

```
2.5 重量%
           ステアリン酸
                                1. 5
           セチルアルコール
                                5. 0
           ワセリン
           流動パラフィン
                               10.0
           ポリオキシエチレン(10モル)モノオレイン酸エステル 2.0
           ポリエチレングリコール1500
                                3. 0
            トリエタノールアミン
                                1. 0
                                0.05
           カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール941, B.F. Goodrich Chemical company)
                                0.01
           チルカ酢酸エチルエステル抽出液
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.01
                                0.3
           エチルパラベン
           香料
                                 適量
           イオン交換水
                                 残余
(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマ
                               合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を
一を溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチ
                               加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一乳
                               化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
レングリコール1500とトリエタノールアミンを加
え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混
                                [0056]
          実施例15 乳液
            (処方)
                                1.0 重量%
           マイクロクリスタリンワックス
                                2. 0
           密ロウ
                               20.0
           ラノリン
                               10.0
           流動パラフィン
                                5. 0
           スクワラン
           ソルビタンセスキオレイン酸エステル 4.0
           ポリオキシエチレン(20モル)ソルビタンモノオレイン酸エステル 1.0
            プロピレングリコール
                                7. 0
            グラマ・ダルスアセトン抽出物
                               10.0
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.01
            エチルパラベン
                                0.3
            香料
                                 滴量
                                 残余
            イオン交換水
                                らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
                                する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
                                [0057]
熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが
          実施例6 ゼリー
            (処方)
            95%エチルアルコール
                               10.0 重量%
            ジプロピレングリコール
                               15.0
            ポリオキシエチレン (50モル) オレイルアルコールエーテル 2.0
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
                                0.15
            苛性ソーダ
            L-アルギニン
                                0.1
            グラマ・ダルス50%エタノール水溶液抽出物 7.0
            2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム 0.05
            エチレンジアミンテトラアセテート・3ナトリウム・2水 0.05
```

0. 2

```
香料
                                  適量
                                  残余
            イオン交換水
                                する。次いで、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、
(製法) イオン交換水にカーボポール940を均一に溶
                                Lーアルギニンで中和させ増粘する。
解し、一方、95%エタノールにグラマ・ダルス50%
                                 [0058]
エタノール水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モ
ル) オレイルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加
          実施例17 美容液
            (処方)
            (A相)
            エチルアルコール (95%)
                               10.0 重量%
            ポリオキシエチレン(20モル)オクチルドデカノール 1.0
            パントテニールエチルエーテル
                                 0. 1
            マナユパメタノール抽出物
                                 1. 5
                                 0.15
            メチルパラベン
            (B相)
                                 0.1
            水酸化カリウム
            (C相)
                                 5. 0
            グリセリン
            ジプロピレングリコール
                                10.0
                                 0.03
            亜硫酸水素ナトリウム
            カルボキシビニルポリマー
                                 0. 2
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
                                  残余
            精製水
(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA
                                 【0060】実施例19 固形ファンデーション
相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を
                                 (処方)
                                                    43.1
                                                          重量%
                                 タルク
行う。
                                カオリン
                                                    15.0
【0059】実施例18 パック
                                セリサイト
                                                     10.0
(処方)
                                亜鉛華
                                                      7.0
(A相)
                                二酸化チタン
                                                      3.8
                     5.0 重量%
ジプロピレングリコール
                                                      2. 9
ポリオキシエチレン(60モル)硬化ヒマシ油 5.0
                                黄色酸化鉄
                                                      0.2
                                 黒色酸化鉄
                                 スクワラン
                                                      8. 0
マナユパメタノール抽出物
                     0.01
                                 イソステアリン酸
                                                      4. 0
オリーブ油
                     5. 0
                                 モノオレイン酸POEソルビタン
                                                      3. 0
酢酸トコフェロール
                     0. 2
                                 オクタン酸イソセチル
                                                      2. 0
エチルパラベン
                     0. 2
                                 ヒエルバ・サンタエタノール抽出物
                                                      1. 0
香料
                     0. 2
                                 防腐剤
                                                      適量
(C相)
                                                      適量
                                 香料
                     0.03
亜硫酸水素ナトリウム
                                 (製法) タルク〜黒色酸化鉄の粉末成分をブレンダーで
ポリビニルアルコール
                    13.0
                                 十分混合し、これにスクワラン~オクタン酸イソセチル
(ケン化度90、重合度2,000)
                                 の油性成分、ヒエルバ・サンタエタノール抽出物、防腐
                     7. 0
エタノール
                                 剤、香料を加え良く混練した後、容器に充填、成型す
                      残余
精製水
 (製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A
                                 る。
                                 [0061]
相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え
```

実施例20 乳化型ファンデーション(クリームタイプ)

(処方)

たのち充填を行う。

(粉体部)

二酸化チタン

10.3 重量%

セリサイト	•	5. 4
カオリン		3. 0
黄色酸化銳	ŧ	0. 8
ベンガラ		0. 3
黒色酸化銳	ŧ	0. 2
(油相)		
デカメチル	<i>、</i> シクロペンタシロキサン	11.5
流動パラフ	フィン	4. 5
ポリオキシ	vエチレン変性ジメチルポリ	Jシロキサン 4. O
(水相)		
精製水		50.0
1, 3-7	ブチレングルコール	4. 5
ヒエルバ・	サンタエタノール抽出物	1. 5
ソルビタン	レセスキオレイン酸エステル	ν 3. O
防腐剤		適量
香料		適量
(製法) 水相を加熱攪拌後、十分	に混合粉砕した粉体部	亜硫酸水素ナトリウム 0.01
を添加してホモミキサー処理する	。更に加熱混合した油	防腐剤 適量
相を加えてホモミキサー処理した		香料 適量
を添加して室温まで冷却する。		イオン交換水 残余
【0062】実施例21 クリー	. A	(製法) イオン交換水にプロピレングリコールとヒノジ
(処方)		ョメタノール抽出物と苛性カリを加え溶解し、加熱して
ステアリン酸	5.0 重量%	70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して
ステアリルアルコール	4. 0	70℃に保つ(油相)。水相に油相を徐々に加え、全部
イソプロピルミリステート	18. 0	加え終わってからしばらくその温度に保ち反応を起こさ
イップロロルミッペッ - グリセリンモノステアリン酸エス		せる。その後、ホモミキサーで均一に乳化し、よくかき
プロピレングリコール	10. 0	まぜながら30℃まで冷却する。
ヒノジョメタノール抽出物	0. 01	[0063]
苛性カリ	0. 2	
実施例22	· -	
(処方)	,, –	
ステアリン	ン酸	2.0 重量%
	レアルコール	7. 0
水添ラノリ		2. 0
スクワラン		5. 0
	ィ チルドデシルアルコール	
		チルアルコールエーテル 3.0
	/ エ / レン 〈と C E に / と / ンモノステアリン酸エステル	
	ングリコール ングリコール	5. 0
	ファッコール エタノール抽出物	0. 05
	ェッノール抽山100 素ナトリウム	0. 03
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		0. 3
エテルハ 香料		適量
音 行 イオン交	 64.7	残余
イオンX: (製法) イオン交換水にプロピレ		スポーツ 乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくだ。
(製法) イオン交換がにプロピレ 加熱して70℃に保つ(水相)。		
融解して70℃に保つ(油相)。		[0064]
実施例23		
英元例と3 (処方)		
(727)		

5.0 重量%

固形パラフィン

ミツロウ

10.0

ミツロワ	10. 0
ワセリン	15.0
流動パラフィン	41.0
グリセリンモノステアリン酸エステル	2. 0
ポリオキシエチレン(20モル)ソル	ピタンモノラウリン酸エステル 2. Ο
石けん粉末	0. 1
硼砂	0. 2
トロンジルアセトン抽出物	0.05
トロンジルエタノール抽出物	0.05
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
エチルパラベン	0. 3
香料	適量
イオン交換水	残余
(製法)イオン交換水に石けん粉末と硼砂を加え、加熱	一で均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃ま
溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱	で冷却する。
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜ	[0065]
ながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサ	
実施例 2 4 乳液	
(処方)	
ステアリン酸	2.5 重量%
セチルアルコール	1. 5
ワセリン	5. 0
流動パラフィン	10. 0
ポリオキシエチレン(10モル)モノ:	オレイン酸エステル 2.0
ポリエチレングリコール1500	3. 0
トリエタノールアミン	1. 0
カルボキシビニルポリマー	0.05
(商品名:カーボポール941,B. F. Good	drich Chemical company)
トロンジル酢酸エチルエステル抽出液	0. 01
亜硫酸水素ナトリウム	0. 01
エチルパラベン	0. 3
香料	適量
イオン交換水	残余
(製法)少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマ	合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を
ーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチ	加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一乳
レングリコール1500とトリエタノールアミンを加	化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混	[0066]
実施例25 乳液	
(処方)	
マイクロクリスタリンワックス	1. 0 重量%
密ロウ	2. 0
ラノリン	20. 0
流動パラフィン	10. 0
スクワラン	5. 0
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	
	ビタンモノオレイン酸エステル 1. Ο
プロピレングリコール	7. 0
	10. 0
亜硫酸水素ナトリウム	0. 01
エチルパラベン	0. 3

適量

香料

(B相)

```
イオン交換水
                                 残余
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
                                らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化
                                する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが
                                [0067]
          実施例26 ゼリー
            (処方)
                               10.0 重量%
            95%エチルアルコール
                               15.0
            ジプロピレングリコール
            ポリオキシエチレン(50モル)オレイルアルコールエーテル 2.0
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
            苛性ソーダ
                                0.15
            Lーアルギニン
                                0. 1
            キイヌア50%エタノール水溶液抽出物 7.0
            2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム 0.05
            エチレンジアミンテトラアセテート・3ナトリウム・2水 0.05
                                0. 2
            メチルパラベン
            香料
                                 適量
                                 残余
            イオン交換水
(製法) イオン交換水にカーボポール940を均一に溶
                                次いで、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、L-ア
                                ルギニンで中和させ増粘する。
解し、一方、95%エタノールにキイヌア50%エタノ
                                 [0068]
一ル水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)オ
レイルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加する。
          実施例27 美容液
            (処方)
            (A相)
            エチルアルコール(95%)
                               10.0 重量%
            ポリオキシエチレン(20モル)オクチルドデカノール 1.0
            パントテニールエチルエーテル
                                0. 1
                                 1. 5
            マカメタノール抽出物
            メチルパラベン
                                 0.15
            (B相)
                                 0. 1
            水酸化カリウム
            (C相)
                                 5. 0
            グリセリン
                                10.0
            ジプロピレングリコール
            亜硫酸水素ナトリウム
                                 0.03
                                 0.2
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
            精製水
(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA
                                マカメタノール抽出物
                                                     0.01
                                                     5. 0
相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を
                                オリーブ油
                                酢酸トコフェロール
                                                     0. 2
行う。
                                エチルパラベン
                                                     0. 2
【0069】実施例28 パック
                                香料
                                                     0. 2
(処方)
(A相)
                                 (C相)
                                亜硫酸水素ナトリウム
                                                     0.03
ジプロピレングリコール
                     5.0 重量%
                                ポリビニルアルコール
                                                    13.0
ポリオキシエチレン (60モル) 硬化ヒマシ油 5.0
```

(ケン化度90、重合度2,000)

エタノール	7. 0	黒色酸化鉄	0. 2
キタン ル 精製水	残余	スクワラン	8. 0
何表小 (製法)A相、B相、C相をそ		イソステアリン酸	4. 0
相にB相を加えて可溶化する。		モノオレイン酸POEソルビタン	3. 0
たのち充填を行う。	次にこれをも指に加え	オクタン酸イソセチル	2. 0
	%¬->.≓ «>.	アラクランエタノール抽出物	1. 0
【0070】実施例29 固刑	<i>5</i>		i. 0 適量
(処方)	4.0 4 年早0/	防腐剤	適量
タルク	43.1 重量%	香料(制は)なりの、用色な化鉄の外土	
カオリン	15.0	(製法)タルク〜黒色酸化鉄の粉末	
セリサイト	10. 0	十分混合し、これにスクワラン~オ	
亜鉛華	7. 0	の油性成分、アラクランエタノール	
二酸化チタン	3. 8	料を加え良く混練した後、容器に充	埧、成型する。
黄色酸化鉄	2. 9	[0071]	
	O 乳化型ファンデーション	(クリームタイプ)	
(処方))		
(粉体	部)		
二酸化	チタン	10.3 重量%	
セリサ	イト	5. 4	
カオリ	ン	3. 0	
黄色酸	化鉄	0. 8	
ベンガ	ラ	0. 3	
黒色酸	化鉄	0. 2	
(油相)		
デカメ	チルシクロペンタシロキサン	11.5	
流動パ	ラフィン	4. 5	
ポリオ	キシエチレン変性ジメチルポ	リシロキサン 4.0	
(水相)		•
精製水		50.0	
1, 3	ーブチレングルコール	4. 5	
アラク	ランエタノール抽出物	1. 5	
ソルビ	タンセスキオレイン酸エステ	ル 3.0	
防腐剤		適量	
香料		適量	
(製法) 水相を加熱攪拌後、-	ト分に混合粉砕した粉体部	亜硫酸水素ナトリウム	0. 01
を添加してホモミキサー処理で		防腐剤	適量
相を加えてホモミキサー処理し		香料	適量
を添加して室温まで冷却する。		イオン交換水	残余
【0072】実施例31 クリ		(製法)イオン交換水にプロピレン	
(処方)	, =	・サングレメタノール抽出物と苛性	
ステアリン酸	5.0 重量%	加熱して70℃に保つ(水相)。他	
ステアリン酸ステアリルアルコール	4.0	融解して70℃に保つ(油相)。水	
イソプロピルミリステート	18. 0	え、全部加え終わってからしばらく	
		を起こさせる。その後、ホモミキサ	
グリセリンモノステアリン酸-	10.0	よくかきまぜながら30℃まで冷却	
		[0073]	19 0 0
チュパ・サングレメタノール			
苛性カリ 中体例の	0. 2		
	2 クリーム		
(処方		0 0 野見24	
	リン酸	2.0 重量%	
ステア	リルアルコール	7. 0	

2. 0

水添ラノリン

```
スクワラン
                                5.0
           2-オクチルドデシルアルコール
                                6.0
           ポリオキシエチレン(25モル)セチルアルコールエーテル 3.0
           グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0
           プロピレングリコール
                                5. 0
                                0.05
           チュパ・サングレエタノール抽出物
                                0.03
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.3
           エチルパラベン
           香料
                                 適量
           イオン交換水
                                 残余
                               乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくか
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱
                               きまぜながら30℃まで冷却する。
                                [0074]
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を加え予備
          実施例33 クリーム
            (処方)
           固形パラフィン
                                5.0 重量%
                               10.0
           ミツロウ
           ワセリン
                               15.0
                               41.0
           流動パラフィン
           グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0
           ポリオキシエチレン(20モル)ソルビタンモノラウリン酸エステル 2.0
           石けん粉末り
                                0. 1
                                0. 2
           硼砂
           ビラービラアセトン抽出物
                                0.05
           ビラービラエタノール抽出物
                                0.05
                                0.03
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.3
           エチルパラベン
           香料
                                 適量
                                 残余
           イオン交換水
(製法) イオン交換水に石けん粉末と硼砂を加え、加熱
                               ーで均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃ま
                               で冷却する。
溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱
融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜ
                                [0075]
ながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサ
          実施例34 乳液
            (処方)
                                2.5 重量%
           ステアリン酸
           セチルアルコール
                                1. 5
                                5.0
           ワセリン
           流動パラフィン
                               10.0
           ポリオキシエチレン(10モル)モノオレイン酸エステル 2:0
           ポリエチレングリコール 1500
                                3. 0
            トリエタノールアミン
                                1. 0
           カルボキシビニルポリマー
                                0.05
            (商品名:カーボポール941, B.F. Goodrich Chemical company)
            ビラービラ酢酸エチルエステル抽出液 0.01
                                0.01
            亜硫酸水素ナトリウム
            エチルパラベン
                                0.3
                                 適量
            香料
            イオン交換水
                                 残余
```

```
(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマ
                               合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を
                               加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一乳
ーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチ
                               化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
レングリコール1500とトリエタノールアミンを加
え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混
                               [0076]
          実施例35 乳液
            (処方)
           マイクロクリスタリンワックス
                               1.0 重量%
                               2. 0
           密ロウ
           ラノリン
                              20.0
                              10.0
           流動パラフィン
                               5. 0
           スクワラン
           ソルビタンセスキオレイン酸エステル 4.0
           ポリオキシエチレン(20モル)ソルビタンモノオレイン酸エステル 1.0
           プロピレングリコール
                              10.0
           モレアセトン抽出物
           亜硫酸水素ナトリウム
                               0.01
                               0.3
           エチルパラベン
                                適量
           香料
           イオン交換水
                                残余
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
                               らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化
                               する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
                               [0077]
熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが
          実施例36 ゼリー
            (処方)
           95%エチルアルコール
                              10.0 重量%
           ジプロピレングリコール
                              15.0
           ポリオキシエチレン (50モル) オレイルアルコールエーテル 2.0
           カルボキシビニルポリマー
                               1. 0
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
                               0.15
           苛性ソーダ
                               0.1
           Lーアルギニン
           モレ50%エタノール水溶液抽出物
                               7.0
           2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム 0.05
           エチレンジアミンテトラアセテート・3ナトリウム・2水 0.05
                                0. 2
           メチルパラベン
                                適量
           香料
           イオン交換水
                                残余
                               で、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、Lーアルギ
(製法) イオン交換水にカーボポール940を均一に溶
                               ニンで中和させ増粘する。
解し、一方、95%エタノールにモレ50%エタノール
                                [0078]
水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)オレイ
ルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加する。次い
          実施例37 美容液
            (処方)
            (A相)
                               10.0 重量%
            エチルアルコール(95%)
            ポリオキシエチレン (20モル) オクチルドデカノール 1.0
```

1
 5

0.15

パントテニールエチルエーテル

グアランゴメタノール抽出物

メチルパラベン

(B相)

```
水酸化カリウム
                                 0.1
            (C相)
                                 5. 0
            グリセリン
            ジプロピレングリコール
                                10.0
                                 0.03
            亜硫酸水素ナトリウム
                                 0. 2
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
                                  残余
            精製水
                                 たのち充填を行う。
(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA
                                 【〇〇8〇】実施例39 固形ファンデーション
相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を
                                 (処方)
行う。
                                                           重量%
                                 タルク
                                                     43.1
【0079】実施例38 パック
                                                     15.0
                                 カオリン
(処方)
                                                     10.0
                                 セリサイト
(A相)
                                                      7. 0
                                 亜鉛華
                     5.0
                         重量%
ジプロピレングリコール
                                 二酸化チタン
                                                      3.8
ポリオキシエチレン(60モル)硬化ヒマシ油
                                                      2. 9
                                 黄色酸化鉄
(B相)
                                 黒色酸化鉄
                                                      0. 2
                     0.01
グアランゴメタノール抽出物
                                                      8. 0
オリーブ油
                     5.0
                                 スクワラン
                                                      4. 0
                                 イソステアリン酸
                     0. 2
酢酸トコフェロール
                                 モノオレイン酸POEソルビタン
                                                      3. 0
エチルパラベン
                     0. 2
                                 オクタン酸イソセチル
                                                      2. 0
香料
                     0.2
                                 クエ・シャーエタノール抽出物
                                                      1. 0
(C相)
                                                      適量
                                 防腐剤
亜硫酸水素ナトリウム
                     0.03
                                                      適量
                                 香料
                    13.0
ポリビニルアルコール
                                  (製法) タルク〜黒色酸化鉄の粉末成分をブレンダーで
(ケン化度90、重合度2,000)
                                 十分混合し、これにスクワラン~オクタン酸イソセチル
エタノール
                     7. 0
                                 の油性成分、クエ・シャーエタノール抽出物、防腐剤、
                      残余
精製水
                                 香料を加え良く混練した後、容器に充填、成型する。
(製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A
                                  [0081]
相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え
           実施例40 乳化型ファンデーション(クリームタイプ)
             (処方)
             (粉体部)
                                10.3
                                      重量%
            二酸化チタン
                                  5.4
            セリサイト
                                  3. 0
            カオリン
                                 0.8
            黄色酸化鉄
                                  0.3
            ベンガラ
                                  0.2
            黑色酸化鉄
             (油相)
            デカメチルシクロペンタシロキサン 11.5
            流動パラフィン
            ポリオキシエチレン変性ジメチルポリシロキサン 4.0
             (水相)
                                 50.0
            精製水
                                  4. 5
            1, 3ーブチレングルコール
                                  1. 5
            クエ・シャーエタノール抽出物
            ソルビタンセスキオレイン酸エステル
                                  3. 0
```

適量

適量

防腐剤 香料

(

0.01 (製法) 水相を加熱攪拌後、十分に混合粉砕した粉体部 亜硫酸水素ナトリウム 防腐剤 適量 を添加してホモミキサー処理する。更に加熱混合した油 相を加えてホモミキサー処理した後、攪拌しながら香料 適量 香料 残余 イオン交換水 を添加して室温まで冷却する。 (製法) イオン交換水にプロピレングリコールとパスチ 【0082】実施例41 クリーム ャカメタノール抽出物と苛性カリを加え溶解し、加熱し (処方) 5.0 て70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解し ステアリン酸 重量% て70℃に保つ(油相)。水相に油相を徐々に加え、全 ステアリルアルコール 4. 0 部加え終わってからしばらくその温度に保ち反応を起こ 18.0 イソプロピルミリステート させる。その後、ホモミキサーで均一に乳化し、よくか グリセリンモノステアリン酸エステル 3.0 きまぜながら30℃まで冷却する。 プロピレングリコール 10.0 パスチャカメタノール抽出物 0.01 [0083] 苛性カリ 実施例42 クリーム (処方) 2.0 重量% ステアリン酸 ステアリルアルコール 7. 0 2. 0 水添ラノリン スクワラン 5. 0 6.0 2-オクチルドデシルアルコール ポリオキシエチレン(25モル)セチルアルコールエーテル 3.0 グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0 プロピレングリコール 5. 0 パスチャカエタノール抽出物 0.05 0.03 亜硫酸水素ナトリウム 0.3 エチルパラベン 香料 適量 イオン交換水 残余 乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくか (製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、 きまぜながら30℃まで冷却する。 加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱 融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を加え予備 [0084] 実施例43 クリーム (処方) 5.0 重量% 固形パラフィン 10.0 ミツロウ 15.0 ワセリン 41.0 流動パラフィン グリセリンモノステアリン酸エステル 2.0 ポリオキシエチレン (20モル) ソルビタンモノラウリン酸エステル 2.0 石けん粉末 0. 1 0. 2 硼砂 チュチュフアシアセトン抽出物 0.05 0.05 チュチュフアシエタノール抽出物 亜硫酸水素ナトリウム 0.03 0.3 エチルパラベン 香料 適量 イオン交換水 残余

(製法) イオン交換水に石けん粉末と硼砂を加え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜ

ながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサーで均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

```
[0085]
          実施例44 乳液
            (処方)
                                2.5 重量%
           ステアリン酸
                                1. 5
           セチルアルコール
                                5.0
           ワセリン
                               10.0
           流動パラフィン
           ポリオキシエチレン (10モル) モノオレイン酸エステル 2.0
           ポリエチレングリコール1500
                                3. 0
           トリエタノールアミン
                                1. 0
           カルボキシビニルポリマー
                                0.05
           (商品名:カーボポール941, B.F.Goodrich Chemical company)
           チュチュフアシ酢酸エチルエステル抽出液 O. O1
                                0.01
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.3
           エチルパラベン
                                 適量
           香料
           イオン交換水
                                 残余
                                合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を
(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマ
ーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチ
                               加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一乳
                                化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
レングリコール1500とトリエタノールアミンを加
                                [0086]
え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混
          実施例45 乳液
            (処方)
           マイクロクリスタリンワックス
                                1.0 重量%
                                2. 0
           密ロウ
           ラノリン
                               20.0
           流動パラフィン
                               10.0
           スクワラン
                                5. 0
           ソルビタンセスキオレイン酸エステル 4.0
           ポリオキシェチレン(20モル)ソルビタンモノオレイン酸エステル 1.0
           プロピレングリコール
                                7. 0
                                10.0
           ラタナアセトン抽出物
           亜硫酸水素ナトリウム
                                0.01
                                0.3
           エチルパラベン
           香料
                                 適量
                                 残余
           イオン交換水
                                らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化
(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
                                する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
                                [0087]
熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが
          実施例46 ゼリー
            (処方)
                               10.0 重量%
           95%エチルアルコール
            ジプロピレングリコール
                               15.0
           ポリオキシエチレン(50モル)オレイルアルコールエーテル 2.0
            カルボキシビニルポリマー
            (商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)
```

ラタナ50%エタノール水溶液抽出物 7.0 2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム 0.05

0.15

0.1

苛性ソーダ

Lーアルギニン

エチレンジアミンテトラアセテート・3ナトリウム・2水 0.05 0. 2 メチルパラベン 香料 適量 残余· イオン交換水 いで、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、Lーアル (製法) イオン交換水にカーボポール940を均一に溶 ギニンで中和させ増粘する。 解し、一方、95%エタノールにラタナ50%エタノー [0088] ル水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)オレ イルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加する。次 実施例47 美容液

(処方)

(A相)

エチルアルコール (95%)

10.0 重量%

ポリオキシエチレン(20モル)オクチルドデカノール 1.0

パントテニールエチルエーテル

0. 1 1. 5

タンボメタノール抽出物

メチルパラベン

0.15

(B相)

水酸化カリウム

0.1

(C相)

グリセリン

5. 0

ジプロピレングリコール

10.0

亜硫酸水素ナトリウム

0.03

カルボキシビニルポリマー

(商品名:カーボポール940, B.F. Goodrich Chemical company)

精製水

残余

エタノール

(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA 相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を 行う。

亜硫酸水素ナトリウム ポリビニルアルコール

たのち充填を行う。 [0090]

(ケン化度90、重合度2,000)

0.03 13.0

【0089】実施例48 パック

(処方)

精製水

7. 0

(A相)

残余 (製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A 相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え

ジプロピレングリコール 5.0 重量% ポリオキシエチレン(60モル)硬化ヒマシ油 5.0

(B相)

0.01

オリーブ油

5. 0

酢酸トコフェロール

タンボメタノール抽出物

0. 2

エチルパラベン 香料

0. 2

0. 2

剤は、チロシナーゼ活性阻害作用を有しており、日焼け 後の色素沈着・しみ・そばかす・肝斑等の淡色化、美白 に優れた効果を有すると共に、安全性にも優れた皮膚外

【発明の効果】以上説明したように、本発明の皮膚外用

用剤である。

(C相)

フロントページの続き

(51) Int. CI. 6

識別記号 庁内整理番号 FΙ

技術表示箇所

A61K 35/78

U 8217-4C

C 8217-4C

W 8217-4C

ADA R 8217-4C

AED T 8217-4C

(72) 発明者 長沼 雅子

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 福田 實

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株 式会社資生堂第一リサーチセンター内